

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果と今後の取り組みについて

福津市立津屋崎小学校

平成29年度4月に6年生児童を対象に実施しました全国学力・学習状況調査(国語・算数, 質問紙)の結果と今後の取り組みについてお知らせします。

なお, 今回公表する結果は, あくまでも学力調査の結果であり, 「学力の特定の一部」です。この結果だけにとらわれることなく, 本校の教育目標「郷土・津屋崎を愛し, たくましく生きる子どもの育成」に向かって, 小中連携し, コミュニティ・スクールを推進していきます。

1. 全国学力調査の結果

【国語】

A問題(基礎的な知識を問う問題), B問題(基礎的な知識の活用を問う問題)ともに, 全国平均と**ほぼ同じ**です。

- 説明文や物語文を要旨や作者の意図に着目して読み取る力が身に付いています。
- 互いの話を聞き, 共通点や相違点を整理して話し合うことや漢字の書き取り(たいしょう=対象)に課題があります。

【算数】

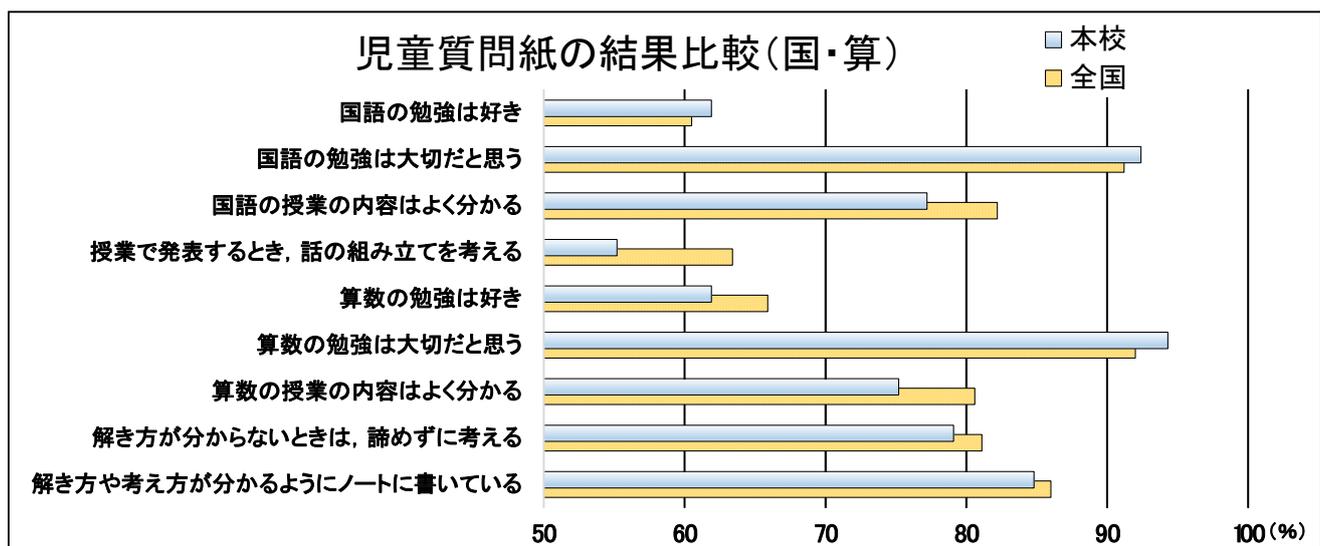
A問題(基礎的な知識を問う問題)については, 全国平均と**ほぼ同じ**です。B問題(基礎的な知識の活用を問う問題)は, 全国平均を**やや下回っています**。

- 計算や図形に関する知識や技能は身に付いています。
- 表を読んだり, 目的に応じたグラフを選択したりすることに課題があります。

2. 全国学習状況調査の結果

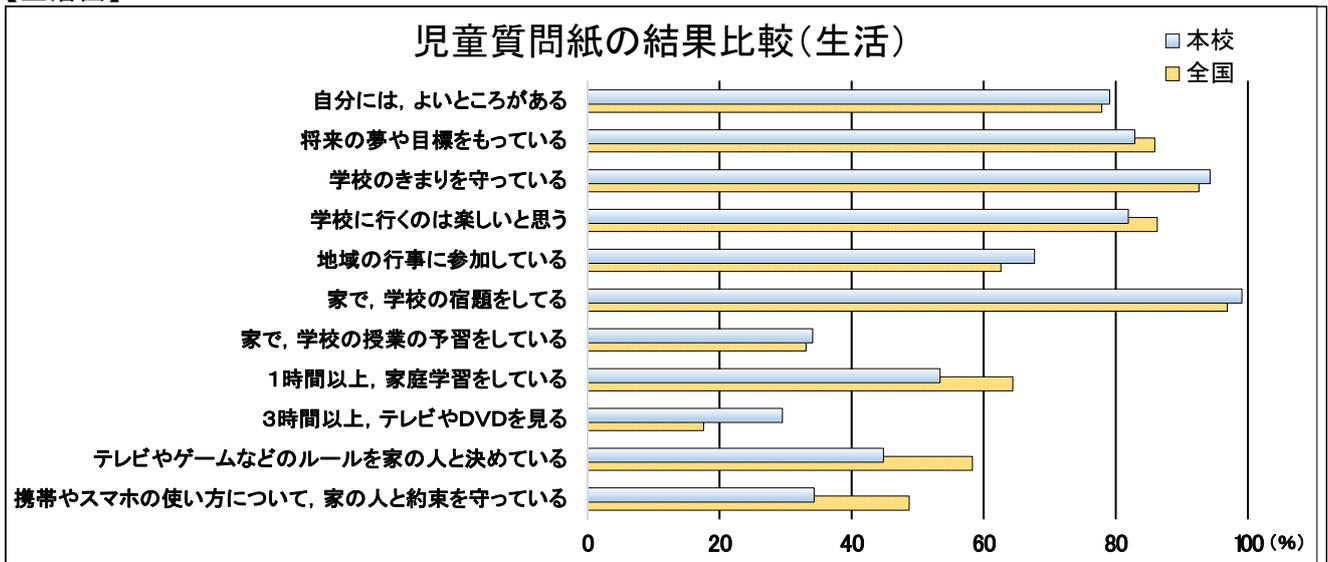
【学習面】

下のグラフは学習に関する質問に「当てはまる」「どちらかという当てはまる」「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」の4段階で, 「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した本校児童の割合と全国の割合を比較したものです。



- 教科の学習について「大切である」ことは感じているものの「学習が好き」「授業は分かる」といった学習への意欲や期待感が低いため, 分かる喜びや学ぶ楽しさを味わわせる必要があります。
- 「発表するときに話の組み立てを考えている」「解き方が分からないときは諦めずにいろいろな方法を考える」といった思考する意欲や粘り強く考える態度が全国に比べて低いため, 話し方の型を身に付けさせたり, 問題の解き方の類型を提示したりするなど, 学習指導を工夫する必要があります。

【生活面】



- 自分のよさへの自覚は全国を上回っているものの、将来の夢や希望をもって生活したり、学校生活が楽しいと思ったりしている児童は全国を下回っています。キャリア教育の視点から学習指導を充実させるとともに、学ぶ意義や仲間とともに問題を解決する喜びを味わわせる必要があります。
- 家庭での宿題は比較的取り組んでいるものの、予習や復習を含めた家庭での学習習慣は全国を下回っています。家庭との連携強化を含め、チャレンジウィークなどの取組を充実させる必要があります。
- テレビやDVD等の視聴時間、テレビゲームをしたりスマートフォン等を使ったりしている時間が長く、視聴時間等についてルール等を守っている児童が少ないです。家庭との連携強化が必要です。

3. 今後の取り組み

以上の結果等を踏まえ、以下のような取組を全職員で組織的に推進していきます。

◆学習指導の充実

- ・ 児童の学習意欲や期待感を高められるよう、児童が主体的に話したり、書いたりする活動を大切に、本年度の重点である、予習を位置付けた算数科学習指導やペア交流・グループ学習等の協働的な学びづくりや、「わかった・できた・もっと、もっと」を実感できる授業づくりを工夫します。
- ・ 様々な教科の学習で、学習してわかったことや感想をノートに書きまとめる指導や発表したり、話し合ったりしながら、全員が授業に参加できる「動きのある授業」を工夫します。

◆朝の活動の充実

- ・ 朝の活動の「計算チャレンジ」や「漢字確かめタイム」を継続させるとともに、子ども自ら伸び(成長)を実感できるように評価を工夫します。

■ 上記を重点的に取り組むとともに、下記の「福津市スタンダード」(市内小学校で取り組む共通内容)の定着を進めていきます。

- 学習規律の徹底
- 基礎的な知識の定着と活用力をつけるための授業の工夫
- 予習を位置付けた、家庭学習の充実

4. 家庭での取組のお願い

子どもたちの学力や規範意識を高めるためには、学校と家庭の連携が不可欠です。学校での取組をより充実させるためにも、特に、以下の2点について家庭での指導をお願いいたします。

- ◎家庭学習の習慣化(家庭学習の確実な見届け)
- ◎テレビやゲーム等の使用に関するルールづくり